

4年間の学び

1年次

「Global English」は、習熟度別クラスで英語のスキルを鍛え、「比較文化論」で人文科学の基礎力を身につける。英語と地域言語から1言語を選択し、基礎ゼミ「チュートリアル」がスタート。地域研究、クラスターから科目を自由に選択

2年次

「基幹演習」で将来のキャリアを考える上での基礎とアジア地域に関する基礎知識を修得。「現地研修」では夏季休暇の約2～3週間で海外大学での語学研修に参加。地域研究、クラスターから興味や進路に応じた科目を選択

3年次

興味・関心のある研究テーマからゼミ（専門演習）を選択。1年をかけて研究を進める。言語文化講座上級を選択し、語学力に磨きをかける

4年次

専門演習と同一教員による「卒業論文演習」がスタート。4年間の学びを卒業論文にまとめる

		1年次	2年次	3年次	4年次	
基礎教育科目	必修科目	チュートリアルI・II / Global English I・II				
	選択科目	フランス語基礎1A・1B・2A・2B / ドイツ語基礎1A・1B・2A・2B / フランス語初級1A・1B・2A・2B / ドイツ語初級1A・1B・2A・2B				
専門教育科目	必修科目	比較文化論	基幹演習I・II	専門演習I・II	卒業論文演習I・II	
	選択必修科目	地域研究	東アジア地域研究1～8 (中国の現代政治、中国の国際関係、中国の経済発展、中国の経済事情、朝鮮半島の近現代史、朝鮮半島の社会、東アジアの文化、東アジアの芸術)			
			東南アジア地域研究1～8 (東南アジアの現代政治、東南アジアの国際関係、東南アジアの経済発展、東南アジアの経済事情、東南アジアの近現代史、東南アジアの社会、東南アジアの文化、東南アジアの環境問題)			
			南アジア地域研究1～8 (南アジアの現代政治、南アジアの国際関係、インドの経済発展、南アジアの経済事情、南アジアの近現代史、南アジアの社会、南アジアの文化、南アジアの芸術)			
			西アジア地域研究1～8 (西アジアの現代政治、西アジアの国際関係、西アジアの経済発展、西アジアの経済事情、西アジアの近現代史、西アジアの社会、西アジアの文化史、西アジア・イスラム国家の歴史)			
		言語文化講座	言語文化講座1～6 (中国語、コリア語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語、ヒンディー語、アラビア語、英語)	言語文化講座7～10 (中国語、コリア語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語、ヒンディー語、アラビア語、英語)	言語文化講座上級I・II (中国語、コリア語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語、ヒンディー語、アラビア語、英語)	
	選択科目	現地研修		現地研修(中国、韓国、インドネシア、タイ、ベトナム、インド、エジプト、オーストラリア)		
		言語文化特殊講義	言語文化特殊講義1～10 (英語、TOEIC対策講座I・II、中国語A・B、コリア語A・B)			
	選択必修科目	国際協力多文化共生	国際協力・ボランティア入門 / SDGs入門 / 多文化共生論A・B / マイノリティの文化論 / 法学概論A・B / 国際協力・多文化共生特殊講義(問題解決学入門、NGO活動論、難民問題、安全保障論、DACIX I～X)	開発経済学A・B / 農業食料問題A・B / ナショナリズムと国家 / 紛争論 / 比較法A・B / 国際政治学A・B / 国際社会学 / 地域福祉論	国際協力・多文化共生ワークショップ / 国際協力・多文化共生フィールドワーク	
		国際ビジネス	経済学基礎A・B / 経営学基礎 / 海外経営事情 / 国際ビジネス特殊講義(インターンシップ準備講座、SPI対策講座)	国際経済論A・B / 国際マーケティング論A・B / 資源環境論A・B / 食品産業論 / インターンシップ・イン・アジア / 国際ビジネス特殊講義(旅行産業論)	企業と雇用A・B / 国際ビジネス特殊講義(ホスピタリティ論)	
異文化理解		宗教文化論1～4 (東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア) / シルクロード文化論 / 比較文化史 / アジアの舞踊と身体文化A・B / イスラム社会論 / オセアニアの文化 / オセアニアの社会 / 異文化理解特殊講義(世界遺産講座I・II、ガムラン合奏I・II)	アジア伝統芸能論A・B / アジア食文化論 / アジア服飾文化論 / アジアのポップカルチャー / アジアのジェンダー / 比較芸術論 / クール・ジャパノロジー / 文化遺産論A・B			
全学共通科目	選択科目	科目内容についてはp.17、18をご覧ください。4年間一貫教育のキャリアサポート 東松山キャリア支援課とのタイアップ授業(講演会や体験談)やゼミ単位のキャリアサポートが充実しています。3年次には、職業選び、企業選びの参考となるような「企業と雇用」が開講されます。				